

2023年4月4日 Vol.213

期待高まる本日からスタートした4月IPO

令和5年の3月も過ぎ、早くもフレッシュマンの心が躍る4月入り。金融システム不安を乗り越え、株式相場への期待も高まる中で3月は15の企業が上場に至り、29日の2銘柄（AnyMind Group、住信SBIネット銀行）を除くと概ね公開価格を上回る初値形成となり、順調な滑り出しとなっています。初値が公開価格（1260円）を3%下回った住信SBIネット銀行も上場2日目の安値からは反転上昇の値動きで安寄りしたことでむしろIPO後の関心が高まった可能性も考えられます。当然のように事業内容や今後の成長期待度によってIPO銘柄の株価への評価にも違いが出てきます。IPO銘柄への各投資家の期待は高まってきたと考えられますが、市場全体にどちらからと言うと低PBRバリュース銘柄への関心が高まっている中ですので、それに該当しない成長期待銘柄で構成されるマザーズ指数などの頭重い展開はなおも続いているのが現状です。

本日より4月のIPOもスタート。本日登場した電子マネーを中心としたキャッシュレス決済サービス事業を展開するトランザクション・メディア・ネットワーク（5258・G・略称TMN）は公開価格930円に対して初値は49%上回る1388円ででした。残念ながらその後は売り物に押されてしまいましたが、ほぼ順調な初値形成と言えそうです。TMNの2023年3月期の売上高は76.8億円で経常利益4億円としており、株主として三菱商事、トヨタFS、NTTドコモ、NTTデータなど有力企業が名前を連ねています。初値の時価総額は511億円となり短期的にはやや割高感がありますが、本格的なキャッシュレス時代の到来を前に今後の成長が期待されます。4月はこの後12日に宇宙関連で月面開発事業を展開するispace（9348・G）が公開予定で公募価格も仮条件価格の上限である254円（公開時時価総額204億円）に決定。上場後にどのような評価をされるのか興味津々です。同社の業績は前3月期で推定売上高9.8億円、経常利益は113億円の赤字が予想されていますので業績面での評価はできませんが、月面開発事業への取り組みを推進しており、時代の変化を先取りした企業という点で個人的には人気を集めるものと見ております。上場時に67億円を資金調達しますが、赤字から黒字に転じる時期なども気になるところで上場後は毎夜、月を見上げる投資家が増えそうです。

残念ながら同日に上場予定だったトライアルHDは上場承認が取り消されましたが、4月はこの後、コインパーキング運営の日本システムバンク（5530・名証M）、GNSS補正情報配信サービスのジェノバ（5570・G）、情報通信業のエキサイトHD（5571・S）、化学工業薬品の南海化学（4040・S）、インターネットバンクの楽天銀行（5838・P）、投資信託運用のレオス・キャピタルワークス（7330・G）、AI、ディープラーニングのRidge-i（5572・G）、営業支援サービスのスタジアム（9157・G）のIPOが予定されており、様々に話題を集めるものと見られます。

（東京IPOコラムニスト 松尾範久）